

## 第1回 四万十市産業振興計画フォローアップ委員会 議事概要

- 日 時 : 平成27年12月4日(金) 14:00~17:00
- 場 所 : 四万十市役所本庁舎3階 防災対策室
- 出席者 : 委員27名中23名出席
- 協議事項: 「四万十市産業振興計画」の進捗状況等について
- 説明事項: 「四万十市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」について
- 配付資料: 【資料1】四万十市産業振興計画の推進体制  
【資料2】四万十市産業振興計画アクションプラン進捗管理シート  
【参考資料1】四万十市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン  
四万十市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン【概要版】  
【参考資料2】四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 1 開会

### 2 市長挨拶

本年3月に「四万十市総合計画」並びに「産業振興計画」を策定し、10月には、「四万十市まち・ひと・しごと総合戦略」も策定したところで、今後は、これら計画をいかにして実のあるものにしていくかが重要です。

また、TPP等も今後進んでいく中、色々と地方へのしわ寄せも出てくると考えられ、より一層、すべての業種が力を合わせ、一つになって前へ進んでいかなければなりません。

委員の皆様から現状を踏まえた意見をいただき、本日の会が意義のあるものとなるよう、よろしくお願いいたします。

### 3 委員の自己紹介

### 4 審議会設置条例の確認

事務局から【資料1】「四万十市産業振興計画の推進体制」に基づき推進体制及びフォローアップ委員会設置条例について説明

### 5 委員長及び副委員長の選任

委員長、副会長について事務局案を提案し承認される。

#### ・委員長挨拶

「産業振興計画」の策定の際も委員長を仰せつかり、今年の3月12日に答申をし、その後、進捗を気にしながらほぼ9ヵ月が経過する中、本日を迎えました。

その間、私自身は、国のまち・ひと・しごと創生本部の日本版CCRC構想有識者会議や移住の国民会議の委員のほか、総務省や内閣府の様々な研究会で政策立案にも関わらせていただいています。

また、地方版「まち・ひと・しごと地方創生人口ビジョン・総合戦略」の策定においても、高知県、高知市、南国市、香南市、本山町の取りまとめを仰せつかり微力ながら責任を果たしてきました。

四万十市産業振興計画のフォローアップ、評価・改善を加えていくうえで、国の動向をはじめ様々な参考になる事例もしっかりお伝えし、この委員会並びに四万十市の将来を左右するこの産業振興計画に少しでも貢献できるよう努めてまいりますので、よろしくお願い致します。

## 6 協議事項

### ・「四万十市産業振興計画」の進捗状況について

事務局から【資料2】「四万十市産業振興計画アクションプラン進捗管理シート」に基づき分野ごとに特徴的な取組みを中心説明

#### 《主な質疑等》

(委員長)

ありがとうございます。少し時間をかけて資料2の進捗管理シートをもとに説明がありました。計画策定の段階では、いわゆる5W1Hを明確にして数値目標を立てるところまで出来なかったところですが、まずは動かしてみようということで計画の1年目をスタートしています。

また、後ほど「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」の説明がありますが、総合戦略にKPI（重要業績評価指標）として掲げた数値目標と産業振興計画の数値目標はかなり重複しています。この辺りも比較しながらご覧いただくことも必要です。

理解しづらい点もあろうかと思いますが、そういった疑問も含めて、それぞれのお立場からご覧いただき評価していただくとともに、不十分なところがあればご指摘いただき、また、改善をすべき点など、どんどん忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

それでは、分野ごとに区切って進めたいと思います。

まず、P.1～P.10の農業分野からお願いします。

(A委員)

P.4の「4. 生産・出荷支援システムの構築 (1) 農作業支援体制の充実」の中の「無料職業紹介所」の開設について、現在、JA高知はたに1カ所ありますが、これを2カ所にしようということで来年4月の開設を目指しています。

この事業に取り組むにあたり雇用創出等の観点から地方創生交付金の活用が可能かどうか、分かれば教えてもらいたい。

(事務局)

地方創生に関する来年度の国の支援制度として、新型交付金が交付されることが示されています。現時点で示されているのは、概算要求額1,080億円、補助率1/2ということで、具体的な事業要件は示されていませんが、これまでの動きからすると、全国のモデルとなるような先駆性のある事業、地域の特色を活かせる事業、明確な目標設定による進行管理が図られること等の要件が考えられ、そういった要件を満たす事業を選定していく必要があります。

農業の「無料職業紹介所」は、先駆性等の観点から十分国へ申請していける取組みである

と考えるので、事業選定にあたっては、当該事業も念頭に置いてまいります。

(委員長)

総合戦略や産業振興計画で実施内容を可視化しておき、それを具体化していく予算的なものは、市の予算、県の予算、国の新型交付金といったいくつかのオプションがある中で、最も効果的でかつ目的に資するような予算措置を講じていかないとはいけません。

それぞれの取組みをどういう裏付けで実施するか、予算措置の見通しが十分立っていないとすれば、どうするかも考えていかなければならないので、その点を分かりやすく表現することも考えてもらいたい。

(B委員)

「ぶしゅかん」は、大変いいミカンで売り出してほしいが、全国的には「仏手柑」という同じ名前の別物のミカンがある。その中で酢としての「ぶしゅかん」を全国に流通させていく場合に、同じ名前というのは都合が悪いように思うが、全国的に知られた「仏手柑」をかき消すよう強力にやっていくのか、そのあたりの考え方、戦略を教えてください。

(農林課長)

取組状況にも記載していますが、プロモーション事業としてテレビCMを100本以上展開するとともに、プロモーションビデオも作り知名度UP、販売促進を推進していくこととしています。

また、首都圏の百貨店、スーパーでの青玉キャンペーンも展開し、好評の声もいただいているところですので、こういったPR活動を継続的に取り組んでいきます。

(委員長)

「ぶしゅかん」の課題で、HACCPに対応した加工施設があげられていますが、食品産業全般でHACCP対応が求められ、義務化される可能性があるともまて言われている中、「ぶしゅかん」だけの課題になっているのはどうしてですか。

また、地域内にHACCP対応の食品加工施設が、どういう業態でどれくらいありますか。

(事務局)

市内の各食品加工事業者と話す中、本市の弱みは、衛生基準が一定整った市外の事業者へOEMで加工を依頼している点で、市内で完結できれば、より雇用につながるとの意見をいただいおり、多様な加工に対応できる設備の整ったHACCP対応の加工施設の整備要望もあります。

そうした中、全ての食品加工に対応した施設が理想ですが、市としてまずは「ぶしゅかん」を一つの切り口とした加工施設の整備ということを視点に置いたものです。

また、市内のHACCP対応の加工施設の状況ですが、JA高知はたの「搾汁施設」が対応していると聞いていますが、それ以外は無いのが現状です。

(委員長)

HACCP対応が義務化される可能性があるということは、やらなければならないという段階に近づいています。県版HACCPなどステージアップして行くいくつかの方法もあり、対応しやすい分野と重点管理点がかなり複雑な分野もあるので、それらを分類しながら具体

例を作っていないと波及しません。

現実と相当ギャップがありそうなので、調べていただいて強化するということを産業振興計画で推進していくといいと思います。

(C委員)

県としても認識していて、県版HACCPということで色々な形で進めているところです。

そうした中、これまで色々な研修事業は高知市内で開催していましたが、幡多地域から研修に参加するには距離と時間がかかるので、この9月補正予算で各市町村において独自の研修ができるよう補助事業を創設し、四万十市はいち早く活用していただいています。

そういった研修の中で、まずはHACCPに対する意識の醸成を行い、必要性を事業者の皆さんに普及していく。そのうえで、場合によっては共同で施設を設置することもできますし、県の産業振興補助金なども活用できます。また、近隣の市町村の施設との共同利用ということも視野にいれながら進めたい。

(D委員)

小さい事業者はHACCPの重要性を認識していないと思います。私も2回ほどHACCPの研修を受け、おそらく義務化になるだろうという中、相当メニューがあって、義務化されると大変だとの認識を持ちました。

小さな事業者でも、意識できるような細かな提案を市からもしてもらえれば周知できていくと思います。

(委員長)

いきなりHACCPというと結構大変で、業種によっては非常に高いハードルがありますので、集約しながら製造の拠点をいくつか置いていくというのも考え方としてはあります。また、繰り返しになりますが県版HACCPのようにステージを少しずつ上げていくというようなことも必要になってきます。

(委員長)

P. 2に「日本産マカの試験栽培」とあります。

私も(株)食文化の萩原さんから新規栽培品種として非常に可能性があるもので、高知でやってみないかとの話をいただき、講演会で講演したこともあります。関心を持たれるところが無く、四万十市で試験が始まったというのは非常にいいことだと思います。

ただ、栽培には相当な寒暖差が必要です。

(E委員)

まだ、西土佐農業公社が契約栽培として始めたばかりで、個人では栽培していませんし、大きな動きにはなっていません。

(委員長)

次にP. 11～P. 17の林業分野でご意見、ご質問はありませんでしょうか。

(B委員)

林業全体については、色々ご支援もいただき感謝しています。

日本の林業はスギが中心で、全国で伐採される木材の6割くらいはスギで、ヒノキは10数パーセント程度しかない中、ヒノキの蓄積量は高知県が全国1位、その中で四万十市が1位ですので、四万十市は全国的に見てもヒノキの大産地です。

一方、ヒノキはスギと比較して成長が遅いため、品質よりも量で売る林業が主流の中でハンデがあり、県内でも大豊製材などの大規模製材所や木質バイオマス発電所が稼働しましたが、ヒノキ産地にはあまり関係ないのが現状です。

スギの方が圧倒的に多い県の方針としては当然ですが、ヒノキ産地としては別の対策が必要で、量で売れないものを質で売っていくためには、やはり建築分野（大工・工務店、設計士）と一緒にヒノキの建築文化をつくり売っていくことが重要で、本当の意味でのヒノキの産地になっていくためには、市内に良質なヒノキを使った建築が沢山できていくことが大事です。

そのためには、市産材利用促進補助を使って一般住宅での利用が広がるとともに、ヒノキを使った公共建築として、ヒノキを構造材として使う建築技術にまだ慣れていないといった課題もありますが、中土佐町の久礼中学校などの例もあるので、それらをどう進めていくかということが、ヒノキを将来活用していく道だと思います。

(委員長)

久礼中学校の例などは、入札の方法も含めて工夫されたと町長から聞いています。やはり、地域としての一体感を計画性も含めて考えていかないとヒノキ材の有効活用はできないので、今の意見は、産業振興計画の中でもしっかりと踏まえていただきたい。

(F委員)

ヒノキは成長が遅いということですが、伐採後の植林の率はどのようになっているのか。伐採後の山すべてに植林されているとは思えず、はげ山も多くあるように思いますが。

(B委員)

再造林の費用を木材の売却益から捻出するのは大変ですので、再造林の率としては最近落ちています。ただ、実際には国有林とか公団造林という形で今年も20～30町の植林はやっています。また、今出されている材は、皆伐よりも間伐材が大半で、間伐材といっても50年～60年の大径のヒノキが出されているので、建築材として十分利用できます。

また、ヒノキの値打ちが本当に出るのは100年くらいからですから、まだまだ間伐材を出していく段階にあります。

(G委員)

林業で作業道の整備を推進し、搬出のためには当然必要ですが、漁業協同組合の立場からすると、大雨が降ると土砂が川に流れ込むとの苦情も寄せられており、工法を考慮してもらいたい。

(H委員)

作業道の開設については、県から補助金等の交付もしていますので、作設の際には、下流への土砂の流入がないように指導はしていきます。

(委員長)

次にP. 18～P. 21の水産業分野でご意見、ご質問はありませんでしょうか。

(G委員)

体験型漁業ということ企画されているが、体験でアユ、エビなどを捕れば、その場で食べるということを考えてもらいたい。

外国の方も観光名所以外の場所に相当数訪れており、四万十川に行けば魚を捕ってその場で食べられるということを発信すれば、観光面でもプラスになると思います。

また、観光遊覧船に台湾や中国の観光客が増えているようですが、船頭さんから言葉が分からないとよく聞きます。できれば通訳を市で確保し派遣してもらえないか。

(事務局)

P. 21にありますように、今年度は新たに二つの漁業体験メニューが造成され、漁業体験だけでなく、川の恵みを使った料理を食べていただくことをセットにしたプランづくりがされています。

また、インバウンド対応として、宿泊施設や観光施設を対象に英会話教室の開催等はしていますが、なかなか全ての言語を網羅した通訳というのは難しいと思います。ただし、観光パンフレットや案内板の多言語化、Wi-Fi環境を使った観光情報の伝達といったところを中心に対応を進めているところです。

(委員長)

ご意見をいただいたとおり、東京や京都といった典型的な観光地以外のところにリピーターで何度も訪れ、人の行かないような所へ興味、関心を示しています。

そういう意味では、外国人観光客が極端に少ない高知県などは、外から見れば興味、関心のあるマニアックな地域になりますので、そこを強化すれば相当誘客できるということになります。

県の外国人観光客数は、全国で下から3番目で、県の産業振興計画でもインバウンド観光の強化は目玉になっていますので、四万十市の産業振興計画ともリンクして目に見える形にしていかなければならないと思います。後ほど、観光分野の中で時間的に余裕があれば、トータルで繋いでいく戦略などについて議論してもいいと思います。

(委員長)

次にP. 22～P. 30の商工業分野については、いかがでしょうか。

(I委員)

現在、土豫銀行跡地利用について商店街から若い次の世代が参加し検討していますが、やはり、商店街を活性化させるためには、次の世代が育たないといけません。

県では、跡取りがいない、帰ってこないという商店の事業承継・人材確保の相談事業を始めているが、ぜひ四万十市にも説明に来ていただきたい。自分の代で終わりというところも結構出てきていますので、高知市内へ行かなくても相談できるようにしてほしい。

(J委員)

産業振興を図っていくには人材というのが一番必要で、少子高齢化が進行し若い方が少なくなるうえに、高学歴化で進学を希望する生徒も多くなる中、地元に残る若者が減っているということを懸念していますが、地元に残りたいという生徒も一定いますので、ハローワークとしては、そういった方が、地元で働けるように取り組んでいるところです。

そのためには四万十市が好きで残りたいといことも重要な要素になるので、学校など教育機関に対しても、四万十市のビジョンなどを理解してもらいながら地元志向の生徒を増やしていくことも必要ではないかと思えます。

加えて、外からの人材を誘致することも重要で、ハローワークは全国機関で求人や必要な人材情報などを全国に発信することもできますので、情報もいただきたい。

(委員長)

この議論は、産業振興計画の根幹をなす人材の問題です。後で、「人口ビジョン・総合戦略」の話があり、まさにその主要な議題です。

高知県は、倒産件数よりも休・廃業件数の方が圧倒的に多く、全国比率の約2.4倍ということで、喫緊の課題として県も動き、「事業承継・人材確保センター」が設立されました。

県単位でもそうですが、地域に行けば行くほど深刻になっていますので、産業振興計画では掲げていませんが、若者やアクティブシニアのU I Jターンを進める移住政策をいかに充実させていくかということに関わっていくと思えます。

非常に重要で、全てが関わっている深刻な課題で、市としても深刻に受け止めている内容ですので、今後も継続して議論していきたい。

(委員長)

次にP.31～P.36の観光分野でご意見、ご質問があればお願いします。

(K委員)

市では、今年度の下半期に市の指定管理観光施設のWi-Fi環境を整備するようになっていますが、昨年度は民間宿泊施設のWi-Fi環境整備に支援いただき、観光系のほとんどの宿泊施設はWi-Fi環境が整いました。

そうした中、四万十川下流域の漁業体験メニューの造成の話があったが、観光に関わる取組みを後で知ることが時々ある。観光と宿泊は繋がりががあるので、なるべくそういった情報を事前に教えていただきたい。海外（台湾）への営業活動の話も後で知りましたが、我々も10年以上前から年2回、来年はアジアを中心に4カ国くらい営業に行きますが、民間としてのノウハウも持っているので、行く前に情報提供もできます。

(委員長)

行政と民間が一体感を持って取り組まないと効率的でないので、是非お願いしたい。

また、観光客のターゲットとしてどこに力点を置くかも戦略として必要です。そのあたりは明確になっていますか。

(K委員)

四万十市には大きなキャパを持った宿泊施設が少なく、団体旅行が急激に落ちてきてFIT（個人手配の海外旅行）が増えている中、個人旅行を中心とした営業を展開すべきで、台

湾へ今年行かれたのは、すごくタイムリーです。

台湾以外にもシンガポールやマレーシア、香港などもF I Tの個人旅行が活発で、私どものホテルの実績でも台湾の次に香港が多く、外国人観光客を対象にした「J R 四国フリーパス」や「ジャパンレールパス」を利用して中村駅で乗降した人が8月～10月の3ヵ月間で1,000人います。乗り降りがあるので半分としても500～600人の外国人観光客が来ています。

ただ、その方がどういう動きで市内を観光しているかが重要で、今は、大半の方が観光協会のレンタサイクルを借りて3時間ほど市内で過ごし、中村駅から高知方面へ帰っています。何故かと言えば、足が無くそれから先の観光ができないからです。

バスを使って西土佐江川崎の道の駅「よって西土佐」に行き、また中村に下ってくる、或いは道後や高知市に行く仕組みづくりが必要で、来年度は二次交通として「四万十川周遊川バス」や「しまんと・あしずり号」を充実させ、12月～2月以外は運行する予定ですので、インバウンドにも大きく貢献すると思います。

(委員長)

伸びから言うとタイもあります。現状を正確に把握し戦略的にイメージを膨らませ、具体的な手段をどう講じていくか、それによって目標にしている外国人観光入込客数5,000人の実現に向かっていくと思います。

また、出来るだけお金を落としてもらうため、滞留時間も延ばさないといけません。

(L委員)

観光と漁業協同組合など、それぞれが権益を主張するので前に進まない。四万十川の漁場もそれぞれ縄張りがあり、そういった権益を取り払って、例えば、岩間と高瀬に年1回「アユの築」を作って観光客を集めて「大おきゃく」をするなど、大きなことをすべきで、そうすれば全国、外国から大勢の観光客が来ると思う。

四万十川というブランドがあるので、色々な権益、枠を超えて大々的なことをやらないと、それが活かせません。

(委員長)

漁業権や漁業協同組合それぞれのテリトリーがあるので、この場でそうしようということにはなりません、ぜひ議論を継続していただくといい。

繰り返しになるが、色々な分野の方々が一同に会して、市の発展のためにどうするかを議論する場があることが大事で、それぞれを否定せず前向きに知恵を出し合って、若い世代にどう四万十市の将来を託していくかという視点で大所、高所から議論していくことが必要です。

今の意見も、例えば、「四万十川の観光」という切り口で、世代や業界を超えた作業部会や分科会といったところで時間をかけて議論していただくといいと思います。

(M委員)

分野を超えてとの話の中で、先ほど林業の作業道から濁りが出るとの意見があり、もっともですが、一方では、土砂が流れ出ないように土捨て場を作っていくと作業道が半分しか進まないということになります。



また、昔の四万十川はもっと水量があったが、今は知り合いがアユ掛けに来てても夏場は水温が高くて入れない、アユも太くなって魅力がないという話です。

昔は、土捨て場を作らずに、谷からどんどん砂利が出て四万十川へ補給できていたが、二次災害が起きたら大変だということで、土捨て場を作り始めたため、200km近い四万十川で江川崎まで砂利が無く、岩ばかりで泥が溜まっている状況です。砂利の下を水が通り、太陽光が当たらないので伏流水が冷たいということを小さい頃から聞いていて、あと15年もすれば、川登くらいまで岩ばかりで水温が下がらないということになると思います。

下流に流れた砂利は元には戻らず、利害関係者ばかりが話し合っても進まないと思うので、大上段から県、市も四万十川をどうしていくかという基本的な考えを持ち、こういった問題の時も、例えば、濁っても砂利が補給できる方が良いというような基本姿勢をもってもらいたい。

(委員長)

四万十川は皆さんの財産ですので、どう残していくかは共通の課題です。

アユやスジアオノリの話に高知大学も長年係わり、学術的な視点も含めて見解もいくつか出て、四万十川をいかに持続可能な財産として残していけるかということ突きつけられています。

産業振興計画をキッカケに、利害関係者が大いに議論していただき、手遅れにならないよう出来るところから策を講じていくことも必要です。アクションにつながる議論の場として皆さんで考えていただきたい。

(委員長)

まだまだご意見があるかもしれませんが、計画策定の際に女性の比率が少ないといったことも話題になり、多様な視点から意見をいただくべきということで、本日は一般の委員として3人の方に入っていますので、順番にコメントをいただければと思います。

(D委員)

膨大な議論ですが、先ほど言われたように分野の枠を超えて、四万十川に頼るばかりではなく、活かしていくためにはどうしたらいいか、それぞれが自分の立場を活かせるような仕組み、それを全体に波及できるような仕組みづくりが計画の中で出来ればいいと思います。

(N委員)

各分野に分かれていますが見れば農業と観光、農業と商業、林業、水産もそうですが、分野を超えて重複している取組み、皆さんが一緒になって取り組まなければ進まないような事業ばかりだと思いますので、どうすればこの計画がきちんと取り組めるかということを中心に置いて、皆で意見を交換していけたらいいと思います。

(O委員)

普段から街を元気にしたい、自分の店を元気にしたいと、本当に皆が頑張っていますが、繋がっていくところがなかなか無いというのが日々の感想です。

今日の話し合いでも、頑張っていることが繋がっていけば絶対強いものになると思いますので、委員長が言われたように、こういう機会をどんどん作って自分達はこうしたいという意見を出し合って、街が元気になる、人が元気になる仕組みを考えていったらいいと思いま

す。

(委員長)

それでは、産業振興計画について本日説明いただいた上半期に関しては、色々のご意見をいただきましたが、進捗が悪いなどの否定的な意見等はありませんでしたので、概ね計画通り進捗している。

ただし、いくつか上半期から下半期を通じて空欄のところもあり、また、給食センターのようにもう少し進んでから数値目標を立てていくような、走り出して考えていかなければならない取り組みもありますので、そういうところは強化、修正を図っていただくということで取り扱わせていただきたいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

(各委員)

承認。

(委員長)

なお、まだ27年度中ですので、さらなる改善の意見等については、部会等あるいは四万十川というキーワードで地域の皆様が議論するような場を設けていただけるとと思いますので、そういう場においてもご意見をいただくようお願いいたします。

これで、協議事項「四万十市産業振興計画の進捗状況等について」は、議論を終わりたいと思います。

## 7 説明事項

### ・「四万十市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」について

事務局から

【追加資料】「四万十市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（概要版）」、

【参考資料1】「四万十市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」、

【参考資料2】「四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

に基づき説明

(委員長)

産業振興計画とのつながりがご理解いただけたと思います。

なお、産業振興計画の数値目標を総合戦略のKPIに活用しているということは理解できますが、ここは産業振興計画の議論の場ですので、こちらの委員の皆様にも総合戦略に盛り込んだKPIが分かるようにしていただき、産業振興計画の進捗管理が総合戦略の一環でもあると捕らえられるようにしてもらいたい。

この人口ビジョン・総合戦略は、産・官・学・金・労・言のそれぞれの関係の方々の意見を積み上げられ、パブリックコメント等で市民の皆様にも十分周知されていますよね。

(事務局)

パブリックコメントにつきましては、「総合計画」、「産業振興計画」を策定する際に実施していますが、今回は策定スケジュールの制約もありそこまでは対応できていません。

今後、広報等で概要をお知らせするとともに、機会ごとに市民周知を図っていきます。

(委員長)

四万十市は、総合戦略に先立って、産業振興計画の議論を始め非常に準備が良かったと思います。

あとは、これをしっかり回して人口ビジョンが実現できるように各々を連動させ、しっかりと地域において進めていかなければなりません。産業振興計画のアウトカムも人口動態や合計特殊出生率に反映され四万十市の将来に直結していて、分かりやすいけれども一番難しいところまで見通して全体を議論していかなければならないと思います。

人口ビジョン・総合戦略についても、市民の皆様にとしっかりと周知し、ご意見をいただきながら5年間のPDCAを回していくと思いますので、こちらについても、色々な場でご意見をお寄せいただくようお願いして、この説明については報告ということに留めさせていただいてよろしいでしょうか。

(各委員)

承認。

## 8 その他

### ・事務局から次回日程について説明

今年度の3月下旬にもう1回委員会を開催する予定で、年間の総括並びに来年度の予算編成の状況等をご説明することとしています。

また、今年度は上半期の開催時期が遅くなりましたが、来年度からは10月頃に上半期のフォローアップを行い、次年度の予算にも反映できるようにしたいと考えていますので、今後ともよろしくお願ひします。

(委員長)

長時間にわたり活発な議論をありがとうございました。

第1回目はこれで終わりますが、第2回目に向けて議論を継続していける様な協議の場をお願いするという話も出ましたので、3月に向けてその場がどういう風に設けられたかも含めて今年度のフォローアップをしていただければと思います。

どうもありがとうございました。